

測りきれない主の祝福

ゼカリヤ書2章

エルサレムはその中に、人と家畜が多くなるので、城壁のない村里のように、人の住む所となるでしょう。主は仰せられます、わたしはその周囲で火の城壁となり、その中で栄光となる。(4、5)

エルサレムの回復に関して、ゼカリヤは一人の人が測り縄を持って出て行くのを目にします。彼は「エルサレムを測つて、その広さと、長さを見ようとするのです」(2)と告げます。

そのとき主は天の使いを通して、エルサレムはやがて大いに繁栄し、測り縄では測りきれないほどになり、もはや城壁で囲むことなど出来ないほどに人も家畜もあふれるようになると告げられました。城壁がないということは敵の攻撃に対して無防備になってしまうことです。主は「わたしはその周囲で火の城壁となり、その中で栄光となる」と言われました。主ご自身が石の城壁ではなく火の城壁となつてあらゆる敵から守つてくださるということです。そのとき、エルサレムの中におられる主の栄光が全地に現されることになります。荒廃の中から懸命に神殿を再建している民にとり、何と力強い主の約束でしょう。人は自分たちの知恵で神の恵みの豊かさを測ろうとします。しかし、主の恵みはわたしたちの予想をはるかに超え、人の手では測りきれないほどになるということです。

わたしたちも主の恵みを常識の範囲内で小さく見積もつてしまうことがないでしょうか。主が生きて働いてくださるとき、主の恵みはわたしたちの予想を大きく超えて外にあふれ出して行くのです。人間の知恵で主の恵みを測ることをやめようではありませんか。